

フェイルオーバー機能

説明

Perforce Helix Core 2019.1はスタンバイ用のPerforceサーバを構築することで、フェイルオーバー環境の準備が可能となりました。

Helix Coreのフェイルオーバー機能は高可用性(HA)と障害回復(DR)をサポートします。

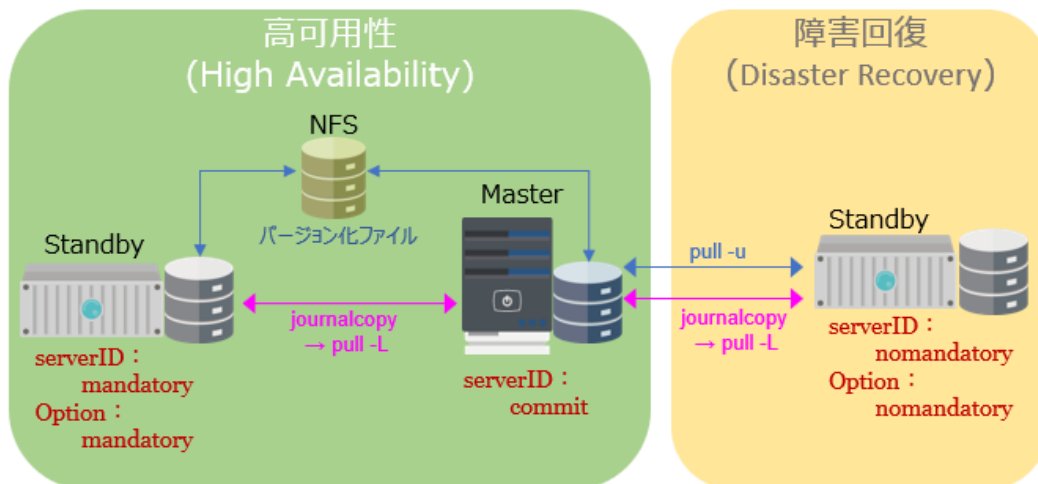
参照ページ

- ・ [「Helix Coreサーバ管理者ガイド: 基本」 - フェイルオーバー](#)

構築手順については下記ページをご覧ください

- ・ [HA\(高可用性\)環境構築](#)
- ・ [DR\(障害回復\)環境構築](#)

■ イメージ図



フェイルオーバー機能に伴う追加項目

■ コマンド

フェイルオーバーで使用する以下のコマンドが追加されました。

- ・ `p4 failover` : フェイルオーバーの実行
- ・ `p4 admin end-journal` : フェイルオーバーするジャーナルの指定

参照ページ

- ・ [「Helix Core P4コマンドリファレンス」 - p4 failover](#)
- ・ [p4 admin end-journalについて](#)

■ サーバ仕様フィールド

サーバ仕様フィールドに「Options」「ReplicatingFrom」が追加されました。
この項目は"p4 failover"コマンドをサポートするもので、db.serverのフィールドにも追加されています。

- ・ Options : nomandatory(default)/mandatoyを指定します。
- ・ Replicating From : スタンバイサーバがジャーナルファイルを取得するserverIDを指定します。

実行コマンド

```
p4 server standby-server
```

修正・追記

Services: standby : standard(default)を修正
Options: nomandatory
ReplicatingFrom: master-serverID ●一行追記

■ 構成可能変数

構成可能変数に「rpl.journalcopy.location」が追加されました。0 / 1を設定します。
スタンバイサーバで最新のマスターサーバの状態を可能な限り維持するため、[1]を設定してください。

- 0 : スタンバイサーバのjournalPrefixのプレフィックスを使用して、journalcopyスレッドがジャーナルをファイルパスに直接書き込みます。
- 1 : スタンバイサーバの"P4JOURNAL(環境変数)"が書き込まれる場所にjournalcopyスレッドがジャーナルを書き込みます。

実行コマンド

```
p4 server standby-server
```

追記

DistributedConfig:
rpl.journalcopy.location=1 ●一行追記



参照ページ

- ・ 「Helix Core P4コマンドリファレンス」 - [rpl.journalcopy.location](#)